

劇場版

私が
私の
誕生日を
全力で祝う本

THE FINAL

井中まち



INTRODUCTION

のっかれるものに のっかれるときに 全力 のっかっけり

『私が私の誕生日を全力で祝う本』

その黄色い本が無料大放送されたのは、今は昔の話——
具体的にいうと、二〇一九年三月二十一日のことだった。

いや、テキレボ8開催当日が私の誕生日だったので。
やるしかねえなって思ったので。

だってイベント当日が誕生日とかなかなかないぜ？
んなに祝ってくれええええ！ って大声あげられる機会そ
うそうないぜ？ ってな感じで、テンションの赴くままに
その本を作ったり配ったりしたのだった。

あの時受けとってくださった皆さま、お祝いしてくださ
った皆さま、本当にありがとうございます。おかげさま
でとても楽しい十五歳の誕生日を過ごせましたし、今年も
また無事に十五歳になりました。もうほんとこんな機会な
いよね、幸せだよね、最初で最後のバカ騒ぎだよね。
って、思ってたんだよその時は。

テキレボEX2、開催期間、延長されたじゃないですか。
最終日、三月二十一日になったじゃないですか。

私の誕生日じゃないですか。
なるほどな。

というわけで、作りました。

『劇場版 私が私の誕生日を全力で祝う本 THE FINAL』

ところで確かにテキレボEX2の最終日は私の誕生日、
三月二十一日なんだけど、これ書いてるのは一月だし、こ
の本が皆さまのお手元に届くのは誕生日から一カ月後くら
いの四月下旬なんですよね。

誕生日って……なんだっけ……。

最後の敵は、自分





十五年間、

ありがとう。

井中まち、十五歳、美少女です！
何度、そう言ってきただろう。
何度、同じ時をさまよってきただろう。
誕生日を迎えるたびに。
その意味が、わからなくなっても。

終わりにしよう。これで、もう。

内なる声に導かれ、彼女はいま、
一步を踏み出す。
十五年分のありがとうと、
十五年分のさようなら、
そして、
十五年の先の、未来を見つめて。

「これが、

最後の十五歳」

原作・脚本・監督 井中まち

——初の劇場版製作を終えて、いまはどんなお気持ちですか。

率直に言っていて、ほっとしています。まさか私が映画になるとは思っていなかったのですが、最初はどうなるんだろう、という不安しなくて。ですが、「私のやりたいうようにやってくれればいいから」という私の言葉に後押しされましたね。結果的にすべてを解放して、のびのびと作ることができました。右も左もわからない状態での制作は大変でしたが、その過程で新しい自分を発見することもできましたし、挑戦してよかったなと思います。

——これが最後の十五歳、とのことですが。

そうですね。長年十五歳をやってきましたが、やはりけじめをつけなければならぬな、と。正直なところ寂しい気持ちはあります。けれど、十五歳が終わっても、私は生き続けますから。むしろ新たな旅立ちなんです。そういう意味では、「終わる終わる詐欺」と言ってもいいのかもしれない(笑)。

十五歳を続けるうちに、どうしても変わっていくものはあるんですね。たとえば必殺技。昔は二重の極みで精一杯でしたが、いまなら牙突にも挑戦できます。やはり得物を使った必殺技は、ある程度十五歳を経験してからでないといけないと危険ですからね。

これが成長です。人は日々成長していきます。それは必殺技がなかったとしても同じことです。

修学旅行では勇気が出なくて買えなかった木刀を買い取るようになった、木刀が計四本になった、なんだったいいんです。私たちはそこに、過去と未来を見ることができると。そして先へ進めるんです。

私は記念すべき木刀一本目を、日光で買いました。その時さも当然のように「洞爺湖って彫りましようか？」と聞かれたことを覚えています。当時は「いえ、これは牙突の練習に使うので」とお断りしましたが、いま思えば彫ってもらえばよかったかもしれないですね。そう、あの時すでに、時代はるるうに剣心ではなく銀魂だったのです。

ついに銀魂も原作・アニメともに完結を迎え、かと思えばるるう剣は北海道編が連載中だし、実写映画の最終章が公開されます。そういうことなんですよ。

ひとまず私がいま言えることは、「十五年間、ありがとう」……と、やはりこれに尽きるでしょうか。

——観てくださった方にメッセージを。

まずはここまで一緒に駆け抜けてくださったって、本当にありがとうございます！ いろいろあって、一時は十五歳を諦めざるをえない状況に追い込まれたこともありましたが、こうして十五歳に復帰し、納得いくかたちでその完結をお見せすることができたこと、心から幸せだなと思います。最後に、私と、この宇宙に生きるすべての皆さまへ……ハッピー・バースデー。

主演 井中まち

ファイナルです！ ついにファイナルを迎えました、『私が私の誕生日を全力で祝う本』、ご覧いただきありがとうございます！ ファイナルです！
 なんでしよう、ちょっといまはまだ信じられないというか、「次はビギニングですか？」という感じというか、やっぱりちょっと寂しい気もしつつ、でもすごく爽やかな余韻に浸っています。打ち上げから帰る始発列車の中みたいな気分です。

長いような、短いような、とにかくいろんなものが凝縮された十五年でした。ついに十六歳になるのかと思うと感慨深いですね。十五歳が未完に終わった時はどうなるかと思いましたが、こうして劇場版としてしっかり完結編をお届けできて、とってもうれしいです。

じつは、「誕生日を祝う本第二弾を待っています」というようなお声はけっこういただいでいて、監督の井中さんとも話し合うことはあったんです。でも、正直私の中では微妙でした。『祝う本』の存在が大きくなりすぎていたんですね。「ああ、あの黄色い本の」とか「ナマコの方ですよね」とか「蘇の」というふうに認識していたことが圧倒的に多くて。いえ、嬉しいんですけどももちろん。ただやっぱり、小説のほうがよろしくお願います三百円あげるから、という気持ちは拭えない私なんですよね。それに気づいてからは、いままです以上素直に私の誕生日を祝えるようになりまして。ありがとうございます、私。そしておめでとう、私！

音楽 井中まち

『私が私の誕生日を全力で祝う本』、ほんとに最後のザ・ファイナル、お楽しみいただけましたでしょうか。私は今回初参加の新参者なので、じつはものすごく緊張しております。

最初にお話をいただいた時は「え、映画ですか？ え、音楽ですか!？」という感じで、かなり戸惑ったのですが、なんとか自分なりに『祝う本』の世界観を音楽という形にすることができたのではないかなと思っています。とはいえ、自分ひとりではとてもやり遂げられませんでした。どんな小さな相談にも乗ってくくださった井中監督をはじめ、長年の主演経験をもとにアドバイスをくださった井中さん、編集の井中さん、本当に大勢の井中さんや井中さんたちのおかげでここまで来られました。この場をお借りして御礼申し上げます。音楽でもなんでもそうなのですが、一番大事なもので「その作品におけるリアリティ」なんじゃないかと思うんです。「現実には忠実」という意味ではなく。没頭できて、夢が見られて、多少の違和感すら気にならなくなるような……言い換えるとシティーハンターにおける新宿ですね。でも新宿はやっぱり怖いところだと思います。私は千葉がいいです。ゴジラも素通りしていくし。そういうリアリティという点で、『祝う本』はたいへん難しい作品でした。ちゃんとその世界の一部になれていけばいいのですが。なにはともあれ、今日も誰かのお誕生日が、幸福に満ちた素敵な一日でありますように。

私が私の本を推すだけのページ

皆さんご存じですか？ 私がこうして狂気の無配を作る理由。ええ、そうです。もちろん皆さんに笑っていただきたいという純粋なそういうアレもあります。あとなんかこう……あふれるパッションが私にそうさせるというのがあります。でもね、聞いてくれ。一番の理由は……一番の目的は！

小説の！ 宣伝のためだよ！

だってそうでしょ無配なんだからああ！ ていうか毎回ちゃんと宣伝入ってるんですよ！ 2019年秋の某通信教育広告風のやつなんて、純粋に宣伝しかしてませんからね!! なのに、なのにだよ!!

「えっ、あれ小説の宣伝だったの?」

って言われた私のこの気持ちよ。

宣伝だったの? て。宣伝だったの? て。

宣伝だよオオオオ無配なんだからアアアアアア! むしろなんだと思われてたの!? でも納得したよね!

どうりで無配自体の感想はいただくけど、そこから先につながらないわけだよね! いや「無配めっちゃ笑ましたー!」って言っていただけるのは超嬉しい。本当に嬉しいんだけどそうじゃない。そうだけどそうじゃないんですおわかりいただけますか。

小説の! 宣伝を! 見て!!!!!!

というようなことをとある方と飲みながら話していたところ、「んー、正直小説の宣伝にはなっていないと思う!」って笑顔で言われました。私は泣きたくなる場所に二つマルをつけてちょっぴりオトナになりました。いまなら靈丸も撃てる気がする。

あ、でも井中まちなち本人の宣伝にはなってると思う! って言っていただけでした。やったね。って思うじゃ

ん? 違うんですよ。この本人のイメージが先行しすぎて、小説を手を取っていただけなのかもしれないというのに気づいたんですよ。

宣伝が逆効果だったわ。

……なんだ。なにがいけないんだ。天パか。やつぱり天パが悪いんか。

うるせえええええええ! どうせサラサラストレートな皆さまにはな! 一話目で『天然パーマに悪い奴はいない』って上げられて、最終話で『天然パーマにロクな奴はいない』って落とされた天然パーマの気持ちなんてわからないんだよ!!!!!!

だいたいなによアイツ。あんな綺麗にいい感じな天パいないわよ。一番セットが大変なはずの前髪と襟足なんてまっすぐじゃない。そんなのオシャレ天パよ。

まあ、とはいえね。たぶんこの無配を手を取ってくだっている方は、小説も読んでくださっているんじゃないかと思うんです。だって今回、無差別無配テロじゃないですすしね。そうじゃなくても勝手に思うことにします。いつもありがとうございます。愛してる。

今回全力で銀魂とジャンプ(古め)ネタに振り切りましたけどついてこられましたか? なんにもわからなかったという方には謝ります。集英社が。

なんだかんだ言いましたけど、これからも無配は作ってあげたいなあと思います。いや小説もな。

というわけで、空知英秋先生作『銀魂』全77巻と、和月伸宏先生作『るろうに剣心―明治剣客浪漫譚―』全28巻をよろしくお願いします。だいたいその二作を知

っておいていただけると、私と木刀で遊べます。一緒に木刀で遊ぼうぜ!!!!!! 牙突零式!!!!!!



カワズ書房